

Not Numbers 野上翠葉

- 1 僕のふらここから ISS ぱきゅん
- 2 春眠の国にあこがれてしまふの
- 3 副詞などとうに忘れてヒヤシンス
- 4 げんごろう一人では握力が要る
- 5 チェルノブイリってもチェリーブロさむれる？
- 6 ゆーえーのロボットは原子炉まなつ
- 7 すりがらすごしに幽霊せつなくなれる
- 8 汗の這ふ溝に女神の名のあって
- 9 われら被爆国をりをりにケルン見ゆ
- 10 さはやかに納骨堂の咽せかへる
- 11 万葉に人称おほし蔦かつら
- 12 いづれまた戦ふ天の高さかな
- 13 トタン屋根そのかなしさを月は見せる
- 14 だが既に北北西を向いて鵠
- 15 火の恋しさよ エレベーターに鏡像
- 16 冬は来る黄色い線のうちがはへ
- 17 平日のひらがなに似て浮寝鳥
- 18 暖房を涎の匂ふ枕かな
- 19 認証にマスク外して僕である
- 20 東西南北に神みる炬燵かな
- 21 われらベッドタウン初夢をまはす
- 22 拭くまへに熱いシャワーを浴びてゐる
- 23 くりかへす雪はダビデの星に似て
- 24 痛覚をきびきびさせてアスパラガス
- 25 スウェットの首吊りみたいな春だった
- 26 白鷺の裔は歴史に飛びたがる
- 27 かんたんに蛇はじまりを chronic する
- 28 うみがめと砲弾すれちがふところ
- 29 滝の向かう子どもを含む百余人
- 30 ゐる母のスープに豆のすこしある
- 31 麦はこの虐殺を支援してゐます
- 32 マジックのなまへ。記憶の四肢とする
- 33 砂漠ひえて眼中のもの皆廃墟
- 34 コカ・コーラつぶして現在が及ぶ
- 35 月面は核の届かぬゆゑ涼し
- 36 ガザでなくなる は このやうに あのにます
- 37 少年の首ほっそりと早星
- 38 いうれいの亜麻色はとぶとぶ垂れる
- 39 あの火蛾をよぎってニュースすぐ古びる
- 40 水系のからだ十月七日をくぐる
- 41 二十一世紀に生まれ踊りけり
- 42 黄落に呂律は遮られさうで
- 43 逆夢のメトロを雪のぐじゅぐじゅと
- 44 でいすとーしょん！ 兎に喉のなかりけり
- 45 吊革をもたれ直方体だらけ、だ
- 46 権力のそこかしこにゐるマスクかな
- 47 やがてララ核の子となり実南天
- 48 しぐれてよ僕が少女であるうちを
- 49 くろがねの塔はさぞ冬ざるかな
- 50 水仙としてでなくては踊れない

- 51 閉ぢやすいかばんを多喜二忌とおもふ
52 新宿は雪どける。眼鏡をしてゐる
53 じはじはと霞と霧の均されて
54 あかいかじつかじって有権者わず
55 國體てふはんかちいふの濡れそぼる。
56 逃げ水に少女いま影を失ふ
57 凧あげればその十字架も上がるだらう
58 みつばちもひとも集团的自衛
59 列島に人なみなみとしゃぼん玉
60 芋蟲を迸りたる昭和もだんかな
61 門わづかに潤って菩提樹の花
62 永久にこれをさくらんぼとした、した
63 腕章 しまうまさんのばじゃまだね
64 軍靴もて蚯蚓は眼とりもどす
65 ひきがえるひからびる罅ひきうける
66 百姓の国ぺんぎんのみない国
67 びいどろや抑へても抑へてもうみ
68 夏果テテ英霊ト謂フコト勿レ
69 葡萄もぐやうに軽火器あつかふの
70 血しぶき浴びて馬のみるみる肥えるかな
71 醒めきって秋は戦線えいゑんする
72 息白く見やう見まねの少年兵
73 水筒をからうじて水であり伝ふ
74 From 偏 to 遍 ウランの山眠る
75 熱だけがリアル
76 星間物質ごしの花火だったかもね
77 迎へ馬には赤兎馬もゐるかしら
78 もそもそと僕といふのが穴に入る
79 過去は雁は届いたらうかこの街へ
80 雪とめどなく一角獣むせぶ
81 なにごともなく湾曲に沿ふ鷗
82 冬凧にゐる。これからになりたがる
83 だらしのない言語野へようこそ脱兎
84 冬そつと浜のほつれを縫ふ夜汽車
85 晩冬を人魚くの字になり睡る
86 なにを許して春野は灰をすれちがふ
87 朧めくはちみつ砂漠にゐるままに
88 とにかくにも羊のすべてがネモフィラ
89 白く昏い午後を手と蝶なぞりあふ
90 かけがへのある惑星を花の雨
91 闇とがざみにすったもんだがありまして
92 共和国にてゑんどうの飛んでゐる
93 忌やみんな灼けてサーカスらしくなる
94 僕ら今もえいゑんだった麦の秋
95 からっぽな胸に翡翠まちで来る
96 青いばら折る折る折る折る祈りかな
97 蛇や第三宇宙速度の巡礼す
98 はまなすの right な がはの will ひらく？
99 くぼんでもプラトーゼったいのこゑだ
100 方舟もあるし平泳ぎもできる